

記入日 2024年 10月 11日
助成団体名 水俣病センター相思社

2023年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	水俣病関連資料の保存と伝える活動への展開
取り組み実施期間または日時	2023年11月～2024年9月

【取り組み目的】

1. 資料保存整理
2. 資料活用環境整備
3. 紙芝居で伝える

【取り組み内容と成果】

1. 資料保存整理

カセットテープのデジタル化を外注する予定だったが、社内の機材が使用できることが判明したため、外注を行わずにデジタル化を進めた。

未整理資料の目録化や整理などの作業には、多数のボランティアも参加した。月に一度は「資料整理の日」と設定し、だれでも参加できる資料整理を行った。職員とボランティアは、資料保存資材の封入、フィルムなどの清掃、鬼塚巖フィルムの整理、パソコンで目録作成を行った。参加するボランティアは各回3～5人程度で、毎回必ず参加される方も2名おられる。整理や保存処理を行った資料だけではなく、このような思いを持って継続的に参加してくださる方が現れたことも一つの成果だ。



▲ボランティアによる16ミリフィルムのクリーニングとガス吸着剤の封入作業

また水俣病歴史考証館の展示室内の天窓から紫外線が入るために展示中の資料の劣化が心配されていたが、UVカットシートの設置工事を行い、紫外線の遮断を実現した。展示資料ケース内には除湿剤を設置し、夏季の高湿度によるカビの発生などを予防することができた。



▲ 考証館の窓の紫外線カットシート設置工事

2. 資料活用環境整備

今年度も、これまで継続して利用しているOPACのサービスを使い、資料のデータベースを社外に公開することができた。OPACで公開していることで、1年間に約20名の利用者（主に研究者やジャーナリスト）から200点以上の資料利用申請があり、活用への手ごたえを感じている。

3. 紙芝居で伝える

計画書には紙芝居を活用するためのセミナー開催を記載していたが、自己負担できる予算が限られていたため採択された助成金額の範囲内でイベント開催は難しく、計画よりも事業規模を縮小した紙芝居活用のための取り組みを行った。具体的には、これまでに行われている伝える活動の中で積極的な活用を行い、来館者向けの上演や地域のイベント、語り部や講演の一環で利用した。

助成事業としては小規模になったが、「みつこの詩」は優秀な紙芝居に送られる「五山賞」の受賞が決まり紙芝居の認知が広がり、相思社外で語り部や教員によって活用が広がっている。

【備考欄】